![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()園長だより　平成３０年１２月号（20181221）

園長　平澤　正則

良い幼稚園・良い先生とは

　先月の研修会（研修テーマは「選ばれる職場」）で心に残った３点を報告いたします。

１　良い幼稚園とは

　　　困っている時，悲しい時，怒っている時，うれしい時，何かを訊いてきた時，褒め，励まし，慰め，共感し寄り添うことが子どもの成長には欠かせません。日常の一つ一つのできごとに当たり前のように丁寧に寄り添うことこそがその後の子どもたちの成長に大きく役立つものです。その後の成長のエネルギーは子どもたち自身の身心の中にあります。運動能力の発達も学習能力や技能の向上もそして非認知能力といわれる思いやりや判断力，指導力などもすべて子どもたち自身が兼ね備えているものです。しかしながら未成熟な子どもたちには周りの大人の支援が必要です。そのことをよくわかっている先生方がいる園が良い幼稚園です。

２　良い先生の条件

1. 個々の子どもの成長をわかりやすく保護者に伝えることができること。

　　　　『教育は目に見えるものではありませんが，この幼稚園で覚えたことや経験は必ず生きてくるでしょう。』私などはつい言ってしまいそうなセリフですが，担任の先生からの言葉がこれだけだったらどうです？がっかりでしょうね。よくわかる説明はよく見ている人にしかできないものです。本日お渡しした「育てのしるべ」には，園児たちの成長の足跡や保育者の具体的な思いが詰まっているはずです。

1. 園でやることについて，何を何のためにやるのか説明することができること。

　　　　　　　　　もし園長や他の先生の指示に従ってやっているだけでしたら，その気持ちは必ず子どもたちにも伝わりますから良い結果は生まれないでしょう。先生自身がきちんと趣旨を理解し目標をもっていればおのずといろいろな創意工夫も生まれ，その結果子どもたちにとってもより楽しい活動となり，楽しい園生活となることでしょう。

３　保幼小（保育園・幼稚園・小学校）連携について・・・前田先生（業界内では有名）の怒り

　　　『毎日コツコツと幼稚園で育んできた子どもの成長がまるでなかったかのような扱いをする小学校の先生に接した時。自主的に自発的に何でもできるような，あるいは何でもやってみようとする子どもたちに育ててきたのに，まるで子ども扱いでゼロからの出発のような接し方をしている小学校の先生を見た時，憤りすら覚えます。』

幼稚園で教える先生方は前田先生が感じることと同じようなことを感じることがあると思います。また，これと同じことを保護者の皆さんが幼稚園の先生方に対して感じることはないのか，私たちは自戒しなければならないと思いました。

子どもたちに自尊心（人生を積極的・肯定的に生き抜くためのエネルギー源）をもたせるためには，先生たち自らが育ててきたものに自信と責任をもたなければならないと思いました。